2023.07.08

IAEA 報告と政府の原発政策

　福島第一原発の「処理水海洋放出」の問題について**ＩＡＥＡが「無視できる程度」という報告を出し**、日本政府・岸田首相は「国際機関のお墨付き」を追い風に「予定通りの海洋放出」を進める意向のようです。

　上記ＩＡＥＡ報告に「科学的な間違い・問題」があるかどうか、については報告書そのものを詳細に検討することが必要なので断定は控えますが、「報告そのものがあまり信用できない」、「報告書以前の問題として岸田政権の原発政策は支持できない」と考えている人は少なくないでしょう。それには決して理由がないわけではありません。列挙しておきましょう。

１，そもそもＩＡＥＡというのは「原子力の平和利用」、「原子力発電を推進していくため」につくられた国際機関であるということ。

〔推進にとって「不都合な真実」は、あまり公表したがらない強い傾向がうかがえること。例えば、IAEA の国際諮問委員会はチェルノブイリ原発事故（1986）の影響を一年近く（1990～91）調査したが、事故直後の対応にあたった**作業員の急性放射線障害以外には（小児甲状腺がんの増加などの）影響は認められない、という報告を出した**。当時においても、「記述は楽観的過ぎる」といった批判がなされている。また、その後、明らかな小児甲状腺がんの増加は、国際的に確認された。〕

２，日本においては「重大事故」は決して起こらないと主張しつつ、原発を長年推進してきた自民党が「福島の大事故」に対してまともに責任を取らないまま、推進政策に舞い戻っていること。被ばくによる健康被害や不安の訴えをまともに受け止め・検証しようとする姿勢が全く感じられないこと。

　私自身、現政権の原発推進政策には強い不信感を抱いています。過去記事の link を貼り付けておきますので、ぜひご一読いただければ幸いです。

2013.09.29　被曝による健康被害を防ぐには
〔上記記事のＰＤＦ版〕

2019.04.20　「美味しんぼ」の雁屋哲さんの発言

〔ＨＰ版　美味しんぼ　雁屋哲（shchan-3.punyu.jp)〕

2022.02.05　「多くの子どもたちが甲状腺がんに苦しみ」批判への反論

2022.02.11　原発事故と公害裁判

〔上記二つの記事のＰＤＦ版〕

2022.09.01　突然の原発推進！？
〔突然の原発推進！？のＰＤＦ版〕